「ー街道筋ーまちなかの家」

〈設計趣旨〉
街道の古い宿場町を中心としたまちなかに建つ県産材を使った優しい住宅
二百年もつ耐久性と高い耐震性をもち、次世代省エネ基準に適合した設計
伝統の文化を伝えながら、現代の生活を受け入れる住み継がれる住宅提案

〈まちなかに建つということ〉

この提案によりまちなかの環境を向上し、コミュニティー活性化を考えました。
建物の周囲にオープンスペースを確保し、緑化をすることでまちなかの環境向上に寄与しています。まちなかの採光・通風を妨げない二階を小さくした設計です。
店舗に付随する和室は主に休憩室ですが、商店会での会合利用も意図しています。
商店会全体、もしくは青年部会などの会合の場を提供し交流の活性化を狙います。
店舗は道路に面して出来るだけ間口を取り存在感ある佇まいとします。
オープンスペースの植栽は住宅側と合わせて道路面にも施し安らぎを提供します。

〈無垢の木を活用〉

無垢の木は光の反射を押さえ目に優しく、肌触りも冷たくなく、木は柱１本でビール瓶一本分の水分を調整できる住環境を快適にする素材です。この提案は構造は柱・梁が表しの真壁、内装材は床をはじめ無垢の木を活用しています。

仕上げだけでなく、下地も間伐材・はがら材を野地板・木刷り板・荒板に使い、通常の新建材などで作るより二倍以上の県産材を使っています。
家具は間伐材の集成材のボードを使い、材料費を抑えながら造作家具とします。
間伐材のボードは建具にも使い、利用が少ない間伐材を活用し林業を支えます。

構造は大工の手刻みによる木組みの構造とします。木はその素材からめり込みの性質を持っています。めり込む木組みは粘り強く倒壊しない家となります。
この構造は限界耐力計算法により解析し極めて希に起きる地震でも安全です。

〈設計内容〉

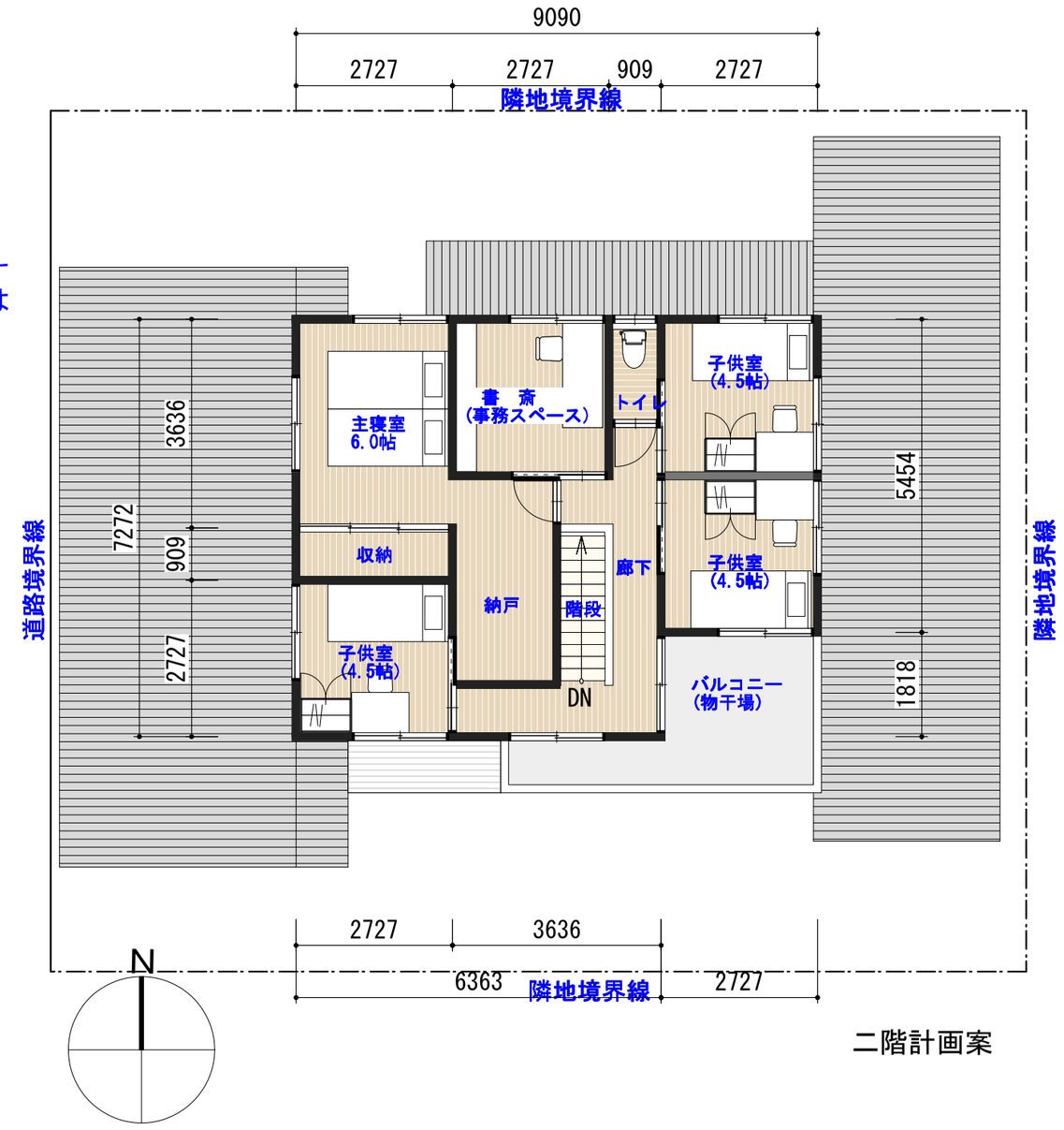
祖父母、親と子の三世代が生活できる設計です。面積を合理的にするため、玄関・水回りを共有した同居型としました。バリヤフリーに配慮し、家事動線も動きやすく無駄のない設計です。三世代の受け皿として収納を十分確保しています。店舗は八百屋・雑貨屋など販売業を想定しています。事務・倉庫と和室を含めて直せば、飲食店にも対応できる設計です。

設計に当たり、この提案を見て実際に建てる人が現れることを願い設計しました。
その為、普遍的な設計、予算を考えて無駄な面積を抑え合理的に設計しています。
祖父母と夫婦に子供三人が生活できます。店舗を営む広さも十分確保しました。
子供部屋は過度に広くなく自立を促す広さとしています。東側の子供部屋二つは一つに繋げて使えます。大きな部屋として使う将来の生活変化に対応できます。
少子化への対策、高齢化の受け皿、社会問題を解決できる設計です。

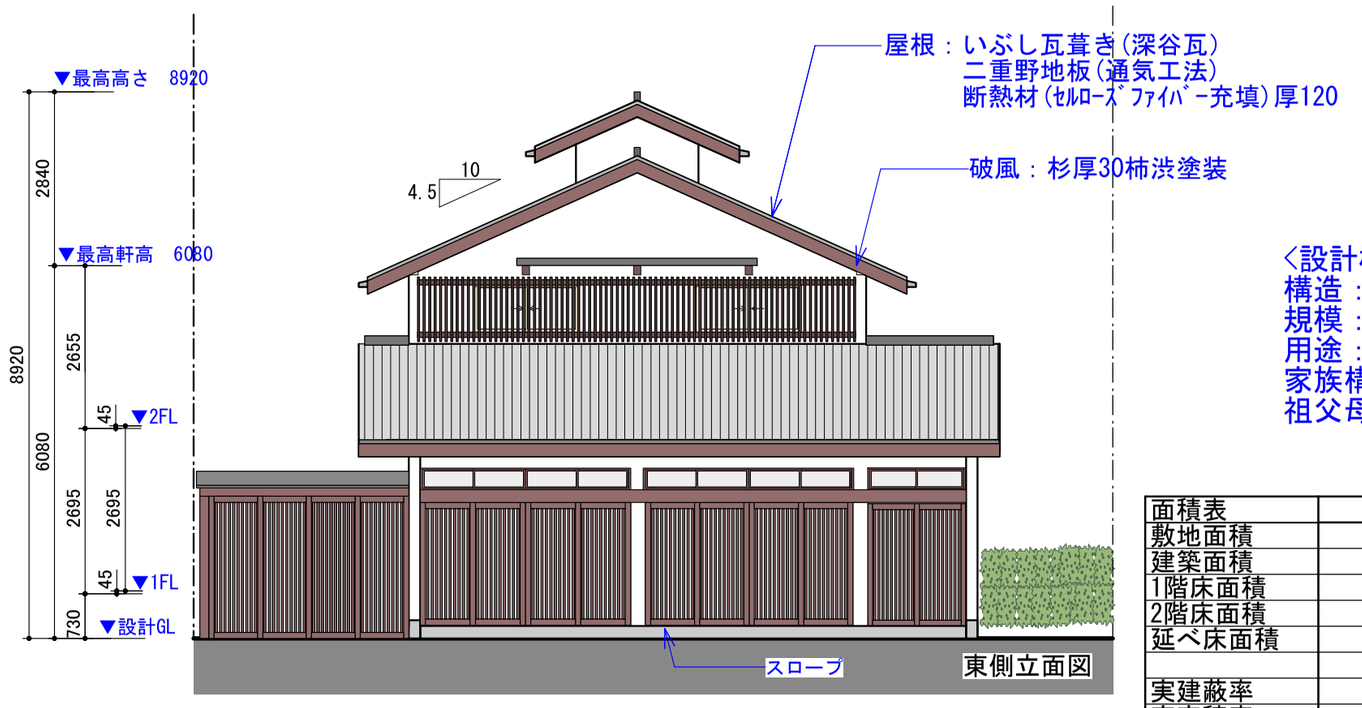
〈独自の工夫〉

屋根・外壁・床下をセルロースファイバーを充填して断熱することで熱容量の高さを生かし保温性を確保、合わせて開口部をペアガラスとし次世代省エネ基準に適合した冷暖房に無駄なエネルギーを使いません。冷暖房は効率の良いヒートポンプを熱源に使う湯か冷暖房システムです。空調のようなムラが無い快適な住まいになります。ヒートポンプは使われていない深夜電力でゆっくりと温度調節を行い、セルロースファイバーの熱容量を生かし電力をバランス良く利用します。

県内には街道筋の宿場を基点とした商店の混在の古い住宅地が多くあります。
この設計は外観を伝統的な日本建築を意識し、そこに現代的な生活の場を作りました。昔からの景観を守りながら、新しい生活が出来るモデルとなります。
また、この提案を応用すれば古くから住まれている建物を修復し時代に合わせることができます。提案を見て住まいを修繕される動きになることを願います。



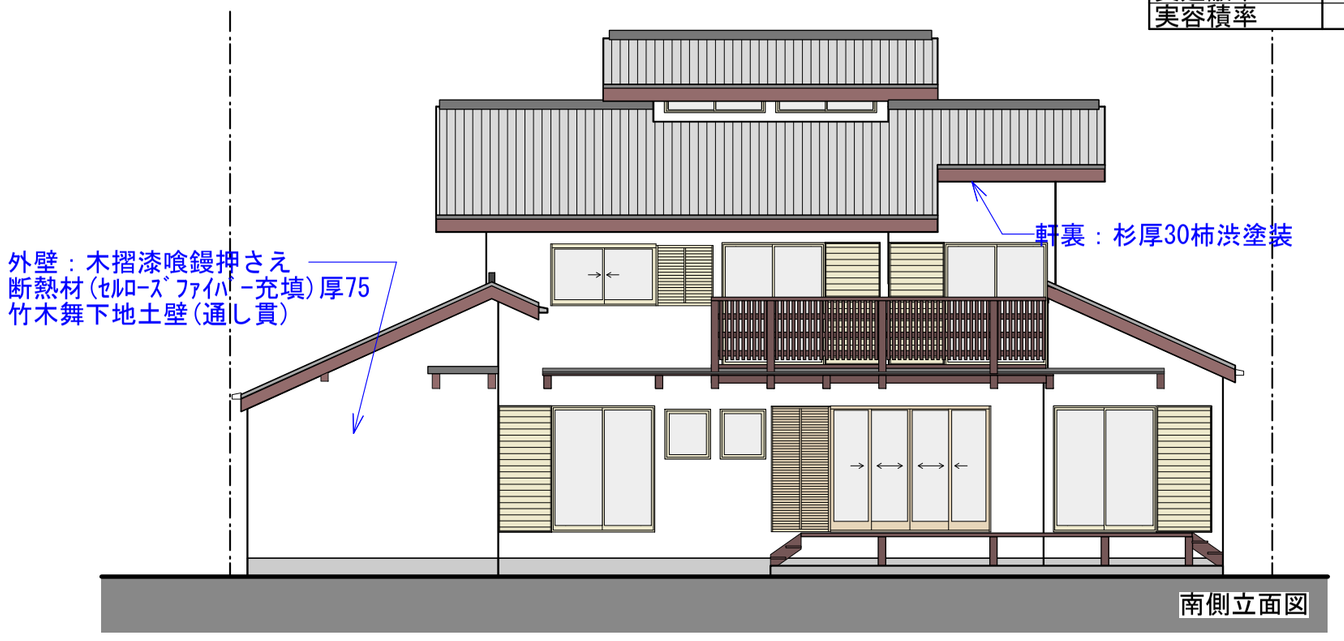
二階計画案



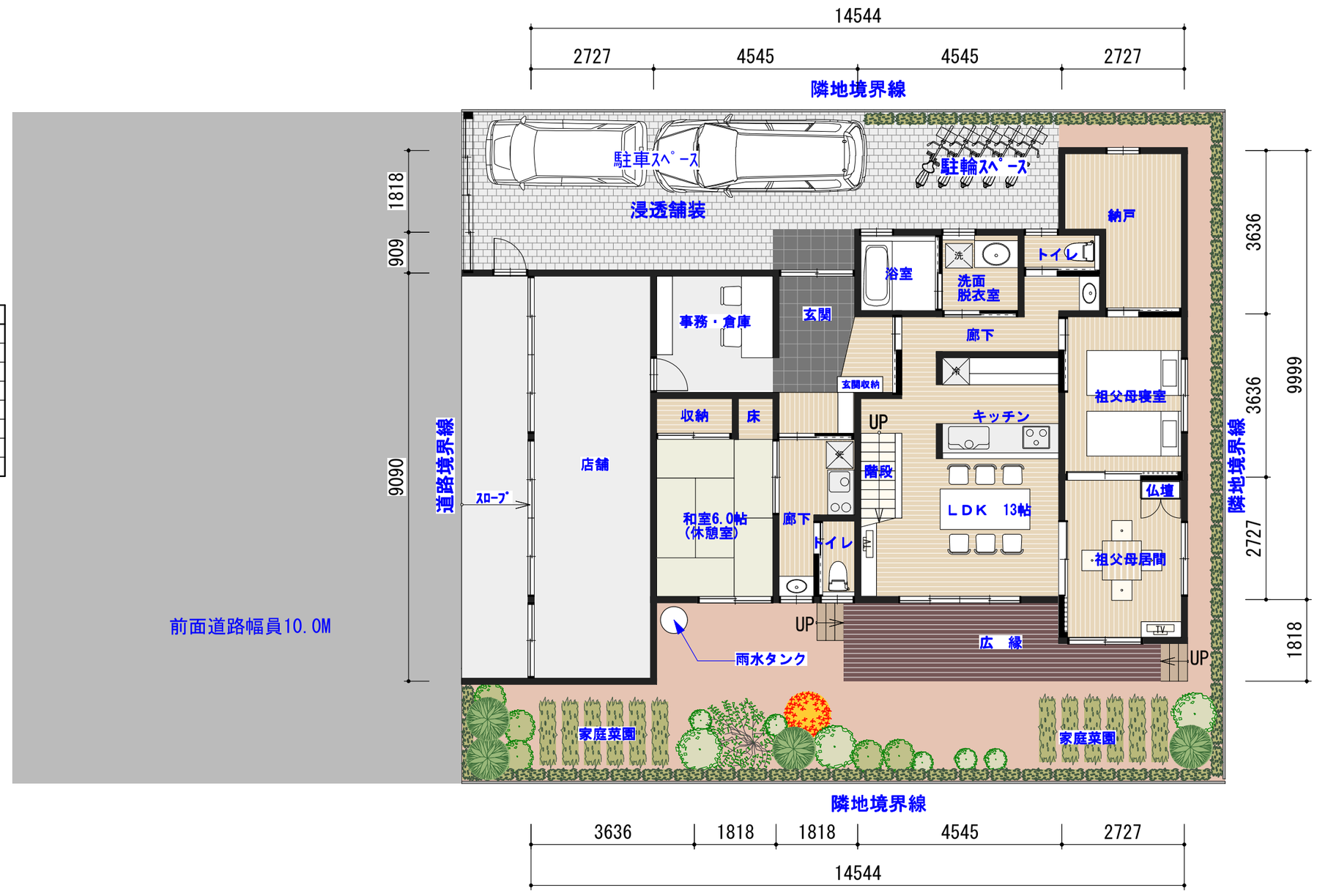
東側立面図

〈設計概要〉
構造：木造軸組構造
規模：地上２階建て
用途：店舗併用住宅
家族構成
祖父母、親夫婦、子供３人

面積表					
敷地面積	255.00	㎡		77.14	坪
建築面積	125.02	㎡		37.82	坪
1階床面積	124.75	㎡		37.74	坪
2階床面積	61.14	㎡		18.49	坪
延べ床面積	185.89	㎡		56.23	坪
実建蔽率	49.03	%	<	60.00	%
実容積率	72.90	%	<	200.00	%



南側立面図



配置・一階計画案